

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	13	大学等名	東京女子大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・全学的な教職協働体制の構築や IR 機能の充実により、大学全体の改革は加速されていると認められる。また、求める入学者の資質・能力・意欲を明示したアドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシー及び卒業時の獲得能力を示したディプロマ・ポリシーを再検討したことにより、入口から出口までの質保証を伴った改革が行われていると評価できる。
- ・ルーブリックによる成績評価の平準化、各種アンケートによる学修成果測定、授業外学修時間の改善の取組は評価できる。
- ・学長が委員長であり事業を統括する教育研究開発委員会を中心とした全学体制が構築されていることと、自己点検・評価委員会と将来計画推進委員会が連携をとることにより、内部質保証と PDCA サイクルは適切に機能していると評価できる。
- ・大学改革推進課と IR 推進室を新設し、継続的に事業を実施できる体制を整備したことは評価できる。
- ・ホームページ掲載、情報誌への原稿執筆、他大学等への訪問調査、他大学の報告会参加等により取組の普及に努めていることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・ルーブリック導入科目、学修行動調査実施率、卒業生アンケート対象者数等の伸張が期待される。なお、退学率及び授業外学修時間が目標値との乖離があるが、その対応状況について甘い印象を受けることから、早急に改善策の再検討をする必要がある。
- ・フォローアップ報告書で指摘された、IR 特任専門員と専門研究員の転出リスク及び授業外学修時間の目標達成の2つの課題への対応は適切であるとは言いがたい。課題の対応状況の再検討をする必要がある。